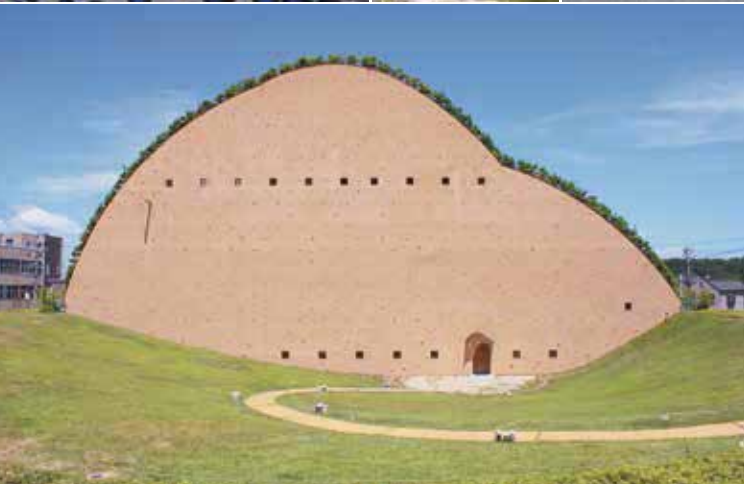




まちとタイルの新しい風景をつくる
多治見市モザイクタイルミュージアム。

世界が注目する建築家、
藤森照信氏が
設計・デザインを担当

藤森照信(建築史家 建築家 当館
名誉館長)／Terunobu Fujimori
／1946年長野県生まれ。東京大学
大学院博士課程修了。専攻は近代
建築、都市計画史。東京大学名誉
教授。東京都江戸東京博物館館
長。全国各地で近代建築の調査、
研究にあたっている。86年、赤瀬川
原平や南伸坊らと「路上観察学
会」を発足。91年<神長官守矢史
料館>で建築家としてデビュー。
97年には<赤瀬川原平邸(ニラ・
ハウス)>で日本芸術大
賞、2001年<熊本県立
農業大学校学生寮>で
日本建築学会賞を受賞。



Design: COUPERT Photo: Akiyoshi Kojima

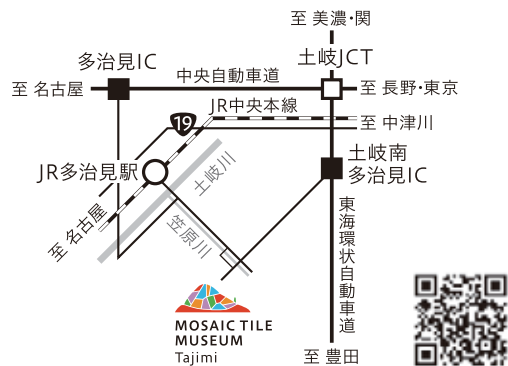


モザイクタイルミュージアム
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

〒507-0901 多治見市笠原町2082番地の5
TEL 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114
http://www.mosaic-tile-museum.jp

開館時間＝9時～17時(入館は閉館の30分前まで)
休館日＝月曜日(休日の場合は翌平日)、年末年始
観覧料＝特別展示開催期間
[一般]500円、[団体(20名以上)]400円
特別展示会場閉室期間(常設のみ)
[一般]310円、[団体(20名以上)]250円
高校生以下は無料(学生証をご提示ください)
年間パスポート:1,020円
◎療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者手帳をお持ちの方、
及び、その付添いの方1名は無料です。

アクセス＝[公共交通機関]
名古屋から、JR中央本線下り、
多治見・中津川方面行き、多治見駅下車。
多治見駅から東鉄バス(約20分の乗車)、
東草口行き、羽根行きにて、
モザイクタイルミュージアム下車。
[自動車]
多治見ICから約25分。
土岐南多治見ICから約15分。
※駐車場は笠原交流センターなどの合同駐車場です。



MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

多治見市 モザイクタイルミュージアム

なぜか、ふしぎな、うつくしさ。



まちとタイル

タイルが活きるのは、
「まち」の中で使われてこそ。
今も多治見のまちでは、公共建築だけでなく、
工場の社屋や一般家庭にも、
産地ならではの多種多様なタイルが
使われています。

市之倉さかづき美術館



4階へ続く大階段は、まるで登り窯のような巨大な土のトンネル



外光が差し込む4階には、藤森氏が選んだモザイクタイルのあふれる不思議な世界



小さなモザイクタイルから広がる無限の世界へ

多治見市モザイクタイルミュージアム—開館の経緯—

大正時代、旧多治見町あたりで始まったタイル産業は、戦後、笠原町を拠点に隆盛します。1995年頃、笠原町の有志がモザイクタイルの収集活動を開始。少しずつ増え続けたタイル資料は、20年以上の時をかけて町の産業にとって貴重なコレクションへと成長しました。国際的な評価を得る建築家、藤森照信氏が、その意義に共感し、設計依頼を引き受けたのが2011年頃のこと。そこからおよそ5年の歳月をかけ、2016年6月、多治見市モザイクタイルミュージアムが開館しました。これからも、小さなモザイクタイルを集めて大きな絵を描くように、成長するミュージアムを目指します。

1階 1人1人1人1人

【受付】

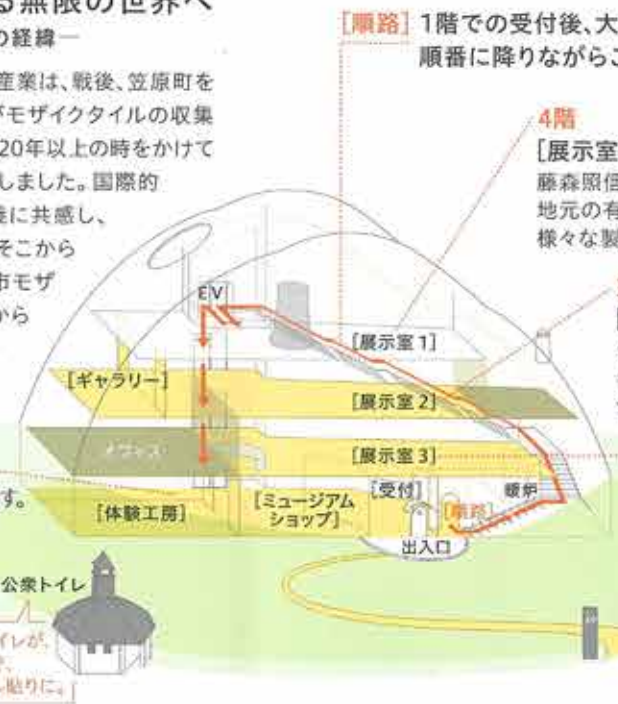
まずはこちらへ。チケットその他ご案内いたします。

【体験工房】

モザイクタイルを使った工作ができます。

【ミュージアムショップ】

お土産はこちらで。
モザイクタイルの詰め放題や、
タイル関連のグッズがたくさん。



【順路】1階での受付後、大階段を上って4階へ。
順番に降りながらご観覧するルートがおすすめです。

4階

【展示室1】(有料)

藤森照信氏セレクトのモザイクタイルの世界。
地元の有志が集めてきた
様々な製品や絵タイルが室内を覆います。

3階 1人1人1人1人

【展示室2】[ギャラリー](有料)

タイルの製造工程と歴史の展示室。
ギャラリーで開催する企画展示に
合わせて、展示替えも行います。

2階 1人1人1人1人

【展示室3】

最新のタイル情報がわかる
産業振興のフロア。
コンシェルジュカウンターにて
お気軽にご相談もできます。



【体験工房】の詳細
通常プログラム:
ワンコイン工作
○予約不要
○受付9:00~16:00
15名様以上の団体様は
ご予約ご相談ください。

その他、期間限定の
プログラムなど。詳細
はホームページで。